

人工膀胱などを利用するオストメイトが入浴施設の利用を断られるケースが各地で起きている。専門家は「衛生上問題なく、拒むべきではない」としているが、判断は個々の施設に委ねられている。オストメイトの団体は「お互いが気持ちよく利用するため理解を深めてほしい」と訴えている。

オストメイト

入浴拒否多発

オストメイト 大腸や膀胱のがんや事故などで消化管や尿管が損なわれ、排泄のために人工肛門や人工膀胱をつけた人の総称。人工肛門・膀胱にはビニール製の完全密閉の袋が装着でき、そこに排せつ物がたまる仕組みになっている。

専門家「問題なし」進めぬ理解

コントロールできないが、一晩や直腸機能に関する身体尿や便をためる袋は完全密閉。障害者手帳の所有者は2012年度末で19万3298人。大半がオストメイトだといわれ、高齢化に伴って数

やプールの利用機会も増加が見込まれる。日本オストミー協会は相談があれば施設や自治体に説明して理解を求めている。滋賀県のある施設は10

約10年前にがんを患って人工膀胱を使っている横浜市の女性(78)は今年4月、神奈川県内の入浴施設で「キャンプを始めるよ」「迷惑になるので出てほしい」と退場を求められた。女性は、装着した袋の中身を入浴前にトイレで流した上でタオルで覆っていた。

トミー協会(東京)には、入浴拒否に関する相談が全国から相次いでいる。宮崎県では今年1月、人工肛門の男性が入浴中に退場させられた。福岡、兵庫、和歌山県でも同様の事例が確認されている。

前川厚子・名古屋大学教授(介護学)は「オストメイトは排せつのタイミングを

年と同協会と県の申し入れを受けて拒否の姿勢を転換した。

ただ、多くは理解が得られないとし、同協会は「業界には正しい知識を深めてもらいたい」と訴え、厚生省は「関係団体と意見交換を重ね、要望に応じて必要な対策を検討したい」としている。